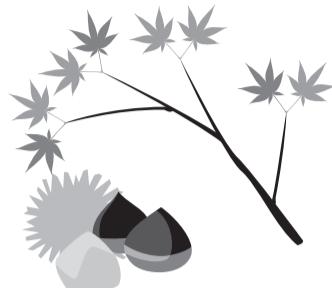


よしかわ通信



りんどう
凜道

錦秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

猛暑と言われる暑い夏が終わるかならないうち、今年は急に涼しくなり、長い雨に悩まされました。ここ数年なら、まだ残暑きびしい9月の上旬、台風の後の秋雨前線に茨城県は苦しまされることになってしまいました。

被害に合われた方には謹んでお見舞い申し上げます。

県内各地から救援部隊が向かいました。高萩市からも、9月11日に救急車と消防職員が、13日には給水車と職員、保健師が派遣され、その後10月1日まで毎日7～10名の職員がお手伝いに行きました。東日本大震災の時、高萩市は飯能市、犬山市などから助けられました。この感謝の気持ちを次の行動に表さなければいけないと思います。

高萩市議会としては、各議員より義援金を出し合い、9月18日お見舞い金として常総市に持参しました。今後の早い復旧をご祈念申し上げます。



発行

高萩市議会議長

よしかわどうりゅう
吉川道隆

高萩市安良川686
TEL 0293-24-0833
FAX 0293-22-3340
ホームページ <http://www.douryu.net>
E-mail info@douryu.net

高萩市本庁舎再建事業

高萩市役所は東日本大震災で被災し、仮庁舎として福祉センターで業務をこなしてきましたが、国からの補助金をもとに、新庁舎として建設されることとなっています。



今後のスケジュール

平成27年11月 入札（仮契約）

12月 議会議決（本契約）

平成28年 1月 工事着工

予定工事期間 19ヶ月

平成29年 7月 完成予定

事業費予算

平成27年7月現在

単位：千円

	本庁舎本体の事業費			その他の事業費					合計
	面積(m ²)	m ² 当たりの単価	事業費	外構工事費	解体工事費	更衣室	プレハブ車庫	委託料	
	6,033	479	2,887,000	154,000	29,000	70,000	5,500	170,000	3,190,104

この他に別途 備品購入費 9000万円 解体工事費（仮設庁舎）8000万円

<庁舎再建に係る震災復興特別交付税の増額について>

平成27年7月16日に、高萩市、水戸市、日立市、石岡市、坂東市、城里町の5市1町長により被災庁舎の再建について、資材価格や労務費などの建設物価の全国的な上昇を踏まえ、震災復興特別交付税の積算単価の引き上げについて総務大臣及び復興大臣に対し要望を行った結果、今般、単価の見直しがなされ、積算単価が引き上げられました。これにより、国からの補助が増額、合計約22億円出ることになり、市としては約31億9000万円の事業費のうち、実質負担額が9億8800万円になったということです。

住んでみたい！と思えるたかはぎの実現のために 吉川どうりゅうの考えるこれからの高萩市

地域コミュニティの活性化

高齢化等により自治会をはじめとした、地域コミュニティ機能が低下している状況です。災害の時、避難の声かけ、安否の確認などの地域のコミュニティが大変重要となります。総務省で提案されている様々な制度を十分に活用し、高萩市活性化につなげられるよう進めていくべきだと考えます。

1、「集落支援員制度」の導入

集落支援員とは・・・地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が、地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員と連携し、集落への目配りとして集落の巡回・状況把握等を実施する。**【総務省より、地方自治体に対して、財源手当(支援員一人当たり350万円(他の業務との兼任の場合・自治会長など・1人あたり40万円)を上限に特別交付税措置)、情報提供等により支援】**

具体的には、**集落支援員となる方(専任)**を決めて、**自治会長などが集落支援員を兼任することで各自治会に40万円ずつ支援金が出る**。その支援金で、地域の活性化ができる。

地方自治体の取組のフロー

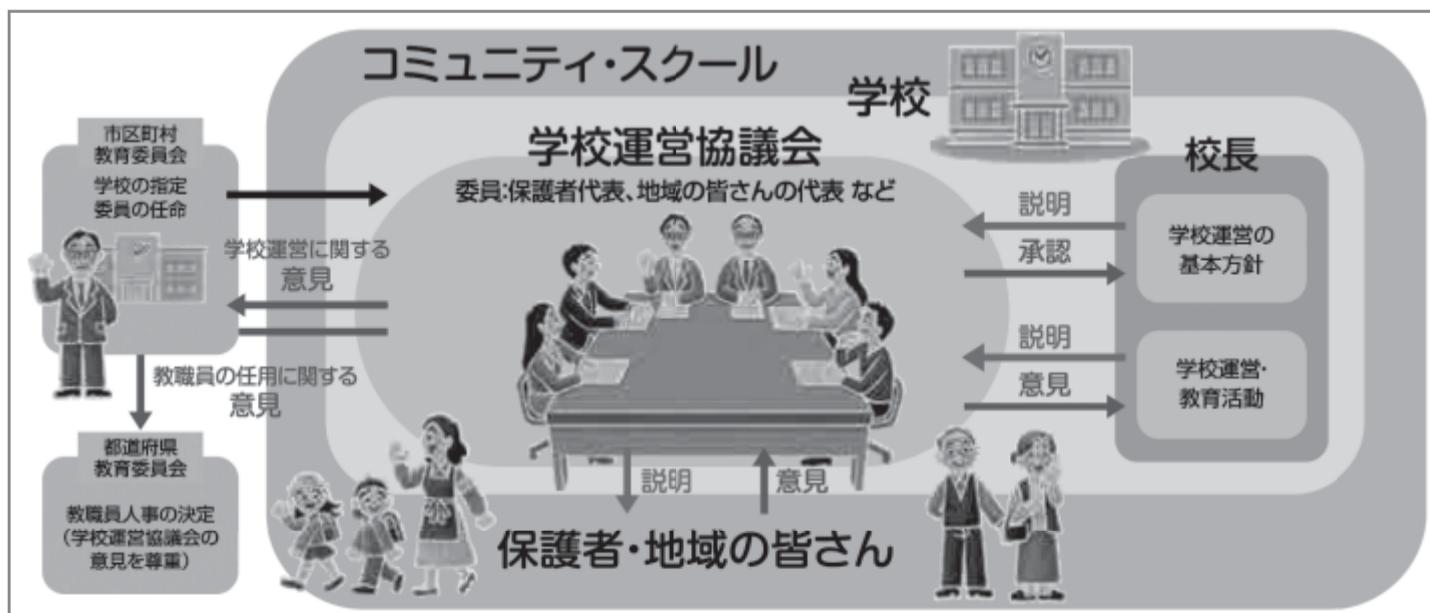
市職員と連携し、住民と共に**集落の点検**(人口・世帯数の動向、通院、買い物、農地の状況など)

集落の在り方について話し合い(現状、課題、あるべき姿)

必要と思われる施策(特産品を生かした地域おこし、農山漁村教育交流、高齢者見守りサービスの実施、伝統文化継承など)を**積極的に実施**

2、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の設置

地域全体で子どもを育てる、守るという意味で、地域の皆さんから支えられる学校。学校と地域の信頼関係を強化することで、災害時に避難所になることが多い学校を地域のコミュニティの核として位置付ける制度。文部科学省が進めるこの制度、全国各地で指定が広がっています。放課後や休日における、子どもたちの見守り、いろいろな体験・指導、寺子屋等の学びの支援など、**地域が学校応援団として関わっていくことで、学校と地域との結びつきが強化されます**。また、平成28年度より、市町村の判断で、小中一貫教育を行うことが出来るようになります。そうなると、1つの地域教育協議会が小中を通した子どもの成長を地域ぐるみで支えることが出来ます。地域の方々も様々な形で子どもたちの成長に関わっていくことができるので、自分の得意な分野で生き生きと活動することが出来るはずです。



※学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長に代わり学校運営を決定・実施するものではありません。

ICT（情報コミュニケーション技術）活用で市民サービスの向上

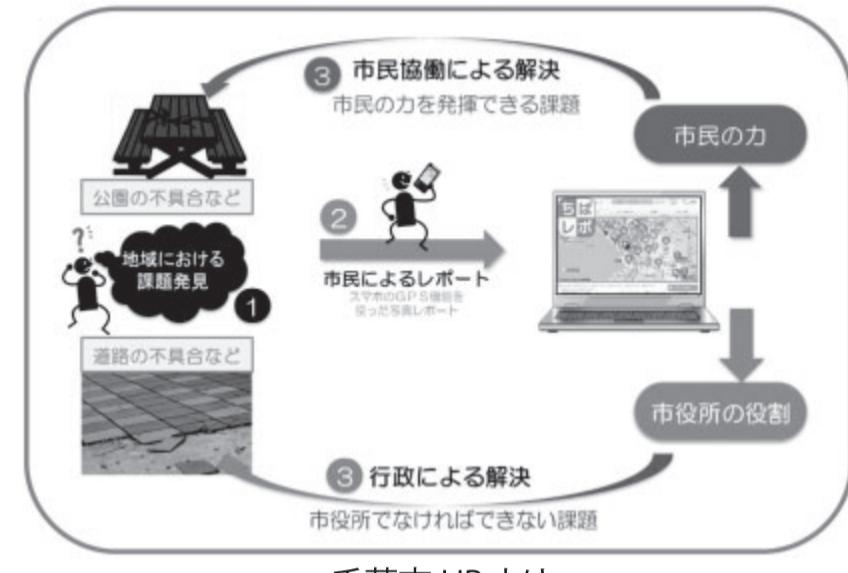
ICTとは、スマートフォンやiphoneを使って、写真や文書による情報を市民の方々から直接市役所に送っていただき、その情報をもとに業務を行うことです。例えば、近所で道が壊れているなどの情報を、市民の方が写真を撮って市役所に直接送信していただくことで、迅速な情報収集、現状把握が出来ます。そうすることで、すぐに担当部署と連携をとり、対応することが出来るようになります。

自治体でのICT活用例

○千葉県

2014年8月にスタートした市民と行政が協働で地域課題を解決する取り組み、「ちば市民協働レポート（ちばレポ）」ちばレポは、市民が道路や公園などに損傷や不具合を発見したら、スマートフォンで写真を撮影し、地図情報とともに市役所へレポートできる行政サービス。レポートされた情報はクラウドサービス上に一元管理され、それぞれの課題に対する市役所の対応状況（受付済・対応中・対応済）をWeb上で閲覧できる。課題の発生から解決までの進捗状況を公開することで、市民の行政への参画意識と行政の効率を高める狙いがある。

ちばレポの仕組みは自治体の人口規模にかかわらず、共通のインフラとして導入でき、自治体のよりスピーディな市民サービスの提供を可能とする。



千葉市HPより

○三重県玉城町

玉城町は、ICTを利活用して高齢化に伴う問題を解決しようと様々な取り組みを始めた。玉城町では住民の行政登録情報や、町が運営しているオンデマンドバスの利用状況、配食サービスの利用状況など、住民が様々なサービスを利用することで集められるデータを「玉城町きずなビッグデータ」として蓄積し、大学や民間企業と協力してこのビッグデータを活用している。このビッグデータの活用によりオンデマンドバスや配食サービスの効率的な運営が可能になるだけでなく、住民の方が家から出ているかどうかも簡単にわかるため、安否確認の役割も果たしている。



○大阪府箕面市

箕面市では、教育現場におけるICTの活用を進めている。電子黒板やタブレットを使っての授業をしたり、ニュージーランドの学生とのビデオ通話を通じた交流などを行っている。また、地域住民が通学路の危険箇所をアプリにまとめてタブレットで通学路の安全確認ができるようになっている。



全国でもこのICTを活用した街づくりを進めている自治体は5%くらいしかないそうですが、住みよい街づくりを効率的に進めるためには有効な手段だと思います。医療連携や、救命救急支援、健康維持促進、防災情報共有、就労支援など、いろいろな分野でICT利活用が行なわれています。

高萩市でもICT教育の推進として児童用パソコン教室の整備、電子黒板、プロジェクター、大型テレビの設置が進められています。現在、各学校でのLANの整備が進んでいないことが課題です。

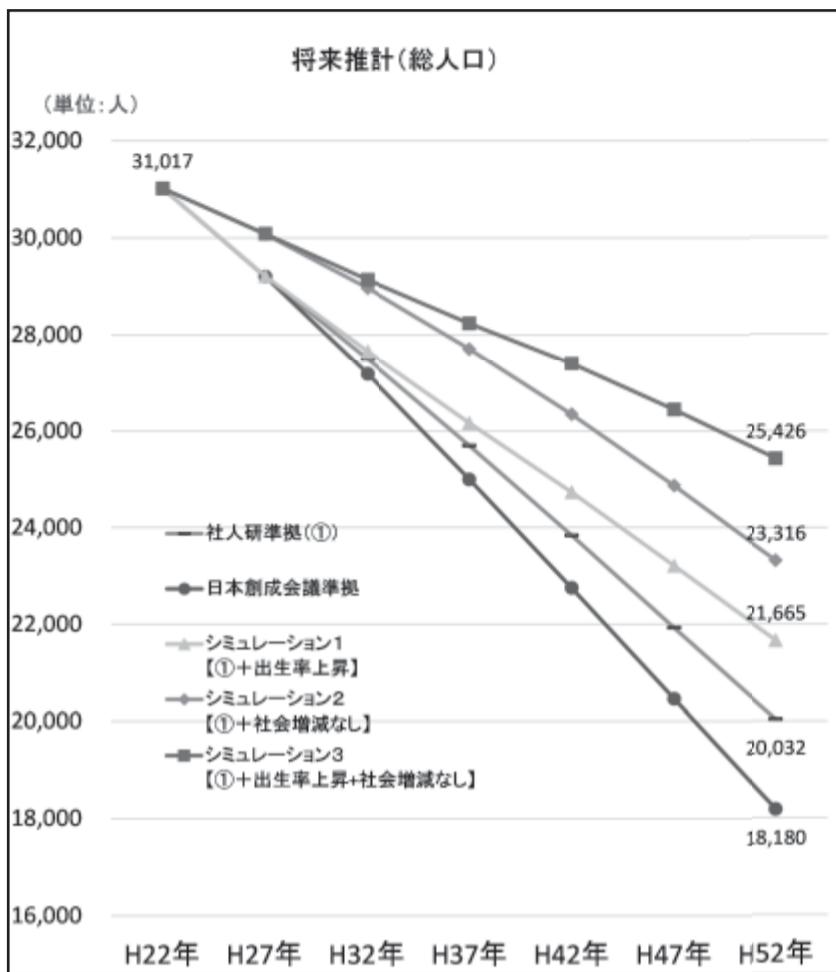


今後、できるところから導入を進めていくべきだと考えております。

高萩魅力度アップ！観光戦略推進

高萩市は、海や山などの自然に恵まれ、災害の少ない住みやすいところです。しかし、その魅力を住んでいる私たちが引き出せない、伝えられていないのではないかでしょうか。さくら宇宙公園の美しい桜と広場、海水浴場、素晴らしい紅葉のみられる花貫渓谷などこれらの自然をもっとアピールして、ゆっくり楽しめる施設、環境を整える。高萩は見て通り過ぎていくだけ、後は北茨城市や勿来でおいしい魚とゆっくりお泊りというルートになりがちです。日立～いわきへ向かう国道6号線に替わるバイパスが構想され開通が進んでおります。今こそ、高萩市に立ち寄っていただくための「何か」を用意しておくべきだと考えます。

地方創生総合戦略の実現



高萩市の将来人口の推計と分析としていろいろなパターンでシミュレーションされています。

このグラフを見ると最悪の場合、すなわち、出生率が上がらず、純移動率(転入、転出による増減)が今と変わらなかつたと仮定したとき、平成52年には高萩市の人団は18,180人まで減ってしまうことになります。

少子化による自然減を抑えるために、結婚・出産・子育ての支援策を考え、転入・転出による社会減を抑えるために、安定的な雇用を確保できるよう努めることが、少しでも人口減少を抑えるためには重要となります。高校卒業後の進学で高萩を離れた若者が、就職で高萩に帰って来られる環境を整えられなければ、今の状況は変えられないのではないか?高萩に帰れば、この仕事が出来るから帰りたいと思えるまちづくりが出来ればと思います。高校卒業後、都会にあこがれ、都会の大学に進学したとき、どうやっても高萩が東京にかなうはずはないので、都会にあるものと同じものが必要というわけではなく、高萩市ならではの何かを考える必要があるでしょう。そして、子育て支援の充実と教育に力を入れて若い世代に定住していただくことが人口減少に歯止めをかけるには、不可欠だと思います。



議会改革の推進

これまでに行った改革

- 1、議会基本条例の制定
- 2、議会、委員会、議会全員協議会等のインターネット配信、たかはぎFMによる生放送(議会全員協議会の生中継は全国でも高萩市だけである)
- 3、年2回、市内6カ所での議会報告会開催

今後も高萩市議会として、住みよい町高萩をつくるために効率的、積極的、かつ前向きな議論が行われるよう改革を推進していきます。



東京マラソン4時間37分で完走!

2月22日に行われました東京マラソンに出場、沿道の方々の声援に励まされながら、無事42.195キロを完走することができました。昨年12月に左足首の靭帯を切って、手術をしたので、完走できる自信はありませんでしたが、いざ走りだしてみると、スタートからゴールまで途切れることなく応援の方々がいて、知らない人でも誰でも、とにかく走っている選手に声をかけてくれる、ボランティアの方々からは給水、差し入れ、そして一緒に走っている周りの選手の方の頑張っている姿、そんな状況の中で、まるで魔法にかかったように走りきることが出来たのです。ゴールしたときは、本当に感動しました。「また、もう一度走りたい。」そういう思いで高萩に帰ってきました。3万5000人の走る東京マラソンには、やはりそれだけの魅力があるのだなと思います。

主催者の方々、ボランティアの方々、後援する様々な団体、たくさんの思いが一つになって、作り上げている力を感じました。そういう力を吸収させていただき、これからもがんばって走りたいと思います。

